

# 公益社団法人 日本給食サービス協会会長賞

『初めての献立』

愛知県豊橋市立つつじが丘小学校 五年三組 男子 松下 滉弥

一年ほど前のことだった。それはまだぼくが、四年生のころの話だ。その日はみんな、給食のことで話しは持ちきりだった。

その理由は給食にひつまぶしが出るからだ。ぼくは胸の高鳴りをおさえるのに登山をする時のように苦労した。ついに、次の時間が給食の4時間目の授業中はお腹が電話のように鳴った。4時間目の授業が終わった。

急ぐ必要もないのに無意識に体が急いで給食のじゅんびをした。ナフキンをきれいにひき、はしをていねいに置き、手をいつも以上にゴシゴシ洗った。ぼくは空腹と興奮という最大の敵と戦かっていた。友達之机にひつまぶしが置かれた時宝石のように見えた。ついにぼく之机にも、ひつまぶしが運ばれてきた。幻覚かと思ってもう一度見て思わず、「わぁ」

と言ってしまった。あいさつの時間がやってきた。

「いただきます」  
まず一口。やわらかい食感と濃厚なたれでたまらない味。おくれて米も口に入る。あたり前のことだが米とひつまぶしはじしゃくのN極とS極のようによく合う。ひつまぶしは少し取っておいた。なぜかというと後で食べて少しでも長くひつまぶしを味わいたかったからだ。

給食が終わってもひつまぶしのことを持ちきりだった。とてもおいしかった。どの給食も大好きだが、いままでで一番おいしかった給食がひつまぶしだ。とてもクセになる味でお母さんに

「家でも食べたい」

と言って、家でも食べさせてもらった。とてもおいしかった。

ぼくは前から好きな給食が大大好きになった。また食べたいなあとても思う。何度も何度も思う。わすれられない味で思い出だけでえがおになれる。

なぜいつも出ないひつまぶしが出たのかというと、新型コロナウイルスの影響で需要が減っている地域の農林水産物を給食に使うことで新型コロナウイルスで打撃を受けた生産者を支援する国の緊急支援の一環だったらしい。この取り組みのおかげでひつまぶしが食べられて良かった。いつもおいしい給食を作ってくれる給食センターの方々に感謝してこれからも大大好きな給食をたくさん食べようと思った。